

# 東京都の“Tokyo Green Finance Initiative” (TGFI)について

東京におけるグリーンファイナンスの拡大に向けて、東京都は2021年2月に「東京グリーンファイナンス市場」の実現に向けた委員会を発足させた。同委員会は議論を経て、2021年6月に「[Tokyo Green Finance Initiative \(TGFI\) ~グリーンファイナンス発展に向けた提言~](#)」を発表した。本レポートでは、同委員会の提言の主要なポイントを要約するとともに、TGFIが外部の企業・組織等にもたらしうる潜在的な機会について考察する。

(目次)

## 1. グリーンファイナンスの状況

- 1-a. 日本におけるグリーンファイナンスの状況
- 1-b. グリーンファイナンスの発展に向けた課題

## 2. TGFIの目的と目指す姿

- 2-a. TGFIの目的
- 2-b. TGFIが目指す姿

## 3. TGFIにおける施策の方向性

## 4. TGFIの進め方

## 5. 外部の企業・組織にとってTGFIがもたらしうる潜在的な機会

ESG債全体で見ると、2016年から2020年の間で発行額が約47倍、発行件数は約49倍に伸びており、グリーンボンドのみならず、ソーシャルボンド、サステナビリティボンドも、発行額は大きく伸びている。ただし、発行額の実態は、グリーンボンドで2020年に7,754億円であり、世界全体の同年の発行額2,900億ドル（約30兆円）と比較すると、なお、低い水準にとどまっている。

脱炭素化に向けた動きは加速しており、今後、日本においてもグリーン分野関連の資金需要は大幅に増加すると予想される。ESG金融がグローバル金融の一大潮流となりつつあり、今後さらなる発展が見込まれる中、欧州や米国にキャッチアップすべく、日本でも、国や民間事業者等との連携の下、グリーンファイナンスを大きく発展させていくことが求められている。

## 1. グリーンファイナンスの状況

### 1-a. 日本におけるグリーンファイナンスの状況

#### 国内における ESG 債の発行状況

国内におけるESG債の発行は、ESG投資への関心の高まりや政府による取組を背景に、近年増加傾向にある。

日本国内の ESG 債の発行額・発行件数の伸び (2016年~2020年)

債券種別	項目	2016年実績	2020年実績	2016-2020年の伸び
グリーンボンド	発行額(億円)	100	7,754	78倍
	発行件数(件)	1	74	74倍
ソーシャルボンド	発行額(億円)	350	9,150	26倍
	発行件数(件)	2	47	24倍
サステナビリティボンド	発行額(億円)	—	4,435	—
	発行件数(件)	—	25	—
合計	発行額(億円)	450	21,339	47倍
	発行件数(件)	3	146	49倍

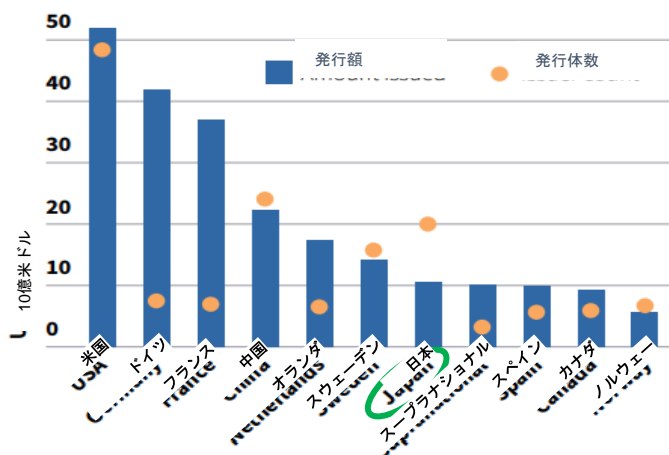
参考: 日本証券業協会作成資料より、東京都作成

# 東京都の“Tokyo Green Finance Initiative” (TGFI)について

## 世界の ESG 投資、グリーンファイナンスにおける我が国の立ち位置

日本においてグリーンボンドの発行額やESG 投資の規模は急速に増加しているものの、以下図表のとおり、欧州や米国、中国などと比べると、日本のグリーンファイナンスや ESG 投資は、未だ十分に進んではおらず、大きな成長余地がある。

### グリーンボンドの国別発行額(2020)



## 政府等における取組の状況

グリーンファイナンスの発展に資する施策を実施する上では、国、民間事業者、及び都が密に連携し、協調・協力していく必要がある。

また、各主体の責任やマネート（委任された権限）を十分踏まえながら、TGFI の役割を極力明確にしていくことが重要である。

出典：

Climate Bonds Initiative, 「サステナブルな債券：市場の世界的状況2020年」2021年4月掲載  
[https://www.climatebonds.net/files/reports/cbi\\_sd\\_sotm\\_2020\\_04d.pdf](https://www.climatebonds.net/files/reports/cbi_sd_sotm_2020_04d.pdf)

## 1-b. グリーンファイナンスの発展に向けた課題

TGFIは、グリーン社会の実現に向けて取り組むために立ち上げられた。しかし、グリーンファイナンスの発展には、依然として多くの課題が存在する。「グリーンファイナンス」は、資金を調達する企業、地方自治体、個人、機関投資家、その他の最終投資家はだけでなく、幅広いステークホルダーを対象とする。以下に、グリーンファイナンスの発展における代表的な課題を列挙する。

### 情報開示や評価をめぐる課題

現在、ESG関連情報には、財務情報のようなルールに基づいた統一的な開示基準はなく、また統一的な開示媒体やプラットフォームも存在しない。

### グリーンファイナンスのコスト

従来のファイナンスに比べ、グリーンファイナンスにおいては、報告書等の作成による情報開示や、外部機関からのレビューの取得など追加的なコストが発生する。

### 国際的な市場間競争の激化

各種プラットフォームの整備や資金の調達側・運用側及び関連するプレイヤーの獲得、人材の獲得などをめぐり、競争が激化している。

### 社債市場の裾野の狭さと調達手段の制約

日本の社債市場の規模は、他の主要市場に比べて小さく、発行者も一部の大企業などに限定されている。また、セカンダリーマーケット（流通市場）の厚みも乏しい。

# 東京都の“Tokyo Green Finance Initiative” (TGFI)について

## 日本の家計の金融資産における 預貯金構造

日本の個人金融資産は約1兆9,000億円で、そのうち現金・預貯金は1兆円を超えている。

## 人的リソースの不足

日本ではまだ、ESG やグリーンファイナンスに関し、情報開示やプロジェクトの評価など多様な業務をこなせる人的リソースが十分とは言えない。

## 2. TGFIの目的と目指す姿

### 2-a. TGFIの目的

TGFI は、企業の脱炭素化投資や環境対応技術の発展などを支援する。一方で、個人や投資家に対しては、有望な運用の選択肢を提供する。これらを通じて、個人の金融資産と環境対応のための投資とをつなげていく。さらに、海外からの投資資金を引き付けていくとともに、ESG金融の有力なプレイヤーも呼び込み、東京金融市場の発展を図っていく。

こうした取組を通じて、東京のグリーンシティ化を推進し、都民の安全や生活の向上を図っていく。あわせて、ポスト・コロナにおける経済の持続的な発展に寄与していく。このようにTGFI は、「都市システム」と「金融システム」両方のグリーン化に貢献するものであり、これは東京のみならず、我が国全体のグリーン戦略、成長戦略、テクノロジー活用を強力に後押しするものとなる。

### 2-b. TGFI が目指す姿

#### (1) 『未来の東京』戦略における「国際金融都市・東京」実現プロジェクトの位置付け

本プロジェクトでは、グリーンファイナンスで世界をリードし、「世界の ESG投資残高に占める日本のシェア 15%<sup>\*1</sup>」を達成することを、2030 年の目標の一つに掲げている。

#### (2) 目指す姿 ～TGFI が東京のグリーンファイナンスの未来を創る～

- ▶ グリーンファイナンスをはじめとするESG関連企業の取組に関する情報を集めたデジタルプラットフォームが構築されている。
- ▶ グリーンファイナンスに参画するプレイヤーが増加・充実し、マーケットの裾野が拡大している。
- ▶ 東京の脱炭素に向けた取組や、企業の持つ優れた環境技術などが世界に発信され、世界からグリーンファイナンスの資金が集まる市場が形成されている。
- ▶ 個人や投資家に有益な運用の機会が提供され、「貯蓄から投資へ」の流れが健全な形で進んでいる。

#### (3) KPI の検討

2025年度に向けて、以下のような定量的・連続的かつ低コストで測定出来る指標を設定することが望ましい。

- ▶ 日本のグリーンボンド、ソーシャルボンド等の発行額および都の発行支援実績
- ▶ 海外金融企業（ESG 投資に積極的な資産運用業者、フィンテック、認証機関等）の誘致件数
- ▶ 国、民間事業者等との共同イベント・セミナー等実施数

<sup>\*1</sup> ESG投資残高には、債券、株式、ローン、不動産、その他のESG投資資産が含まれる。日本のESG投資残高には、国内外の株式、債券、ローンが含まれており、投資家は日本国内に所在する。

## 東京都の“Tokyo Green Finance Initiative” (TGFI)について

### 3. TGFIにおける施策の方向性

グリーンファイナンス市場における我が国の現状と、そこから生じる課題に対するTGFIの「基本的な考え方」と「施策の方向性」を以下のとおり整理した。

#### 1. グリーンファイナンス市場の発展

- 東京都が保有する企業のESG関連情報をオープンデータ化し、ESGに積極的に取り組んでいる企業を評価する
- グリーンボンド発行の際に必要な外部レビュー等にかかる負担を軽減するための措置を講じる
- アンカー発行体として都のグリーンボンドの発行を継続し、他の自治体と発行に関するノウハウを共有する

#### 2. グリーンファイナンスにおける参加プレイヤーの裾野拡大

- グリーンファイナンスに取り組む外国企業を誘致し、ビジネス展開を支援する
- 中小企業に対するESG動向等の情報を提供し、地域金融機関との連携によりグリーンローンを推進する
- 個人投資家のESG投資促進に向けて、つみたてNISAの参照指数へESG指数を組み込む

TGFIの出典および全文:

東京都政策企画局、Tokyo Green Finance Initiative (TGFI) ～グリーンファイナンス発展に向けた提言～ 2021年6月掲載  
[https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/pgs/2021/06/images/tgfi\\_teigen.pdf](https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/pgs/2021/06/images/tgfi_teigen.pdf)

#### 3. 環境施策・環境技術の情報発信とESG人材の育成

- グリーン資金需要を生み出す先進的な環境施策やプロジェクトを展開し、海外に向けた情報発信を強化する
- 展示会や見本市等を通じ、優れた環境技術を有する企業の情報発信を強化する
- 海外高度金融人材を呼び込むための東京におけるビジネス・生活面の環境整備、大学と連携した人材育成プログラムを実施する

### 4. TGFIの進め方

TGFIでは、東京都が地球の持続可能性を脅かす環境問題の解決に向け、グリーンボンドを中心としたグリーン分野の諸施策を早急に実行に移すべきであることを提言している。特に、取り組むべき課題が多岐にわたり、かつ迅速に対応する必要があることから、すでにノウハウがある分野ではすぐに具体的な施策を開始し、同時に他の分野でもスピード感を持って取り組むべきである、と結論付けている。

### 5. 外部の企業・組織にとってTGFIがもたらしうる潜在的な機会

今後TGFIが機運を醸成することにより、外部の企業・組織等にとって、以下のような領域で、より潜在的な機会がもたらされることが期待されます：

- ESGやグリーン領域における、外部からの評価や情報開示へのニーズ
- 環境の変化による影響についての、外部からのモニタリング・シミュレーション・予測へのニーズ
- 投資家や他のステークホルダーとの対話の重要性の向上
- 人材の確保・育成の必要性
- 環境関連技術を持つ日本の企業等への、VC等の投資家による投資の拡大